



# 日台稲門会

NEWS LETTER 第20号

平成 24 年(2012 年) 中華民國 101 年

初春号

発行者 日台稲門会事務局

編集人 齋藤

東日本大震災から11カ月を経てやっと復興庁が被災地再生に向けスタートしましたが、混迷を極める政局を尻目に立春も過ぎ、いよいよ春の準備です。さて、日台稲門会ニュースレター第20号をお届けします。

## ◇ 台湾校友会総会報告 ◇

### 早稲田大学台湾校友会2011年度総会、関連行事が開催された

日 時：平成23年11月26日(土)

場 所：台北) 國賓大飯店『樓外樓』

台湾校友会2011年度総会が、台北において11月26日(土)に、また、その関連行事が翌27日(日)に開催されました。

メインイベントに先立ち25日(金)の夜、台北稲門会主催による恒例の前夜祭が、新光三越南西店の隣にある四川料理「樺慶川菜餐廳」にて、和やかな雰囲気の中で開催されました。

本年度総会は、18時に一昨年と同様に國賓大飯店の最上階にて、早稲田大学の鎌田総長、白井前総長をお迎えして行われました。台湾校友会・董会長の開会のご挨拶の後、蒲田総長のご挨拶、記念品の交換、日本からの福岡、行政書士、日台をはじめとした各地域稲門会代表者からのご挨拶と続きました。その後、鄭総幹事から台湾校友会の活動報告がありましたが、董会長、鄭総幹事ともに4年の任期を全うされてのご退任となります。ご後任の方々は、後日の理事会にて決定されるとのことです。

台北稲門会の山田会長の乾杯の音頭からは、毎年のように歓談の輪が会場全体に広がりましたが、本会の後半の主役は、初めて参加された遠州稲門会の皆様でした。野田副会長以下4名の方が出席され、第二校歌「人生劇場」、「紺碧の空」、「校歌」、「エール」まで一気に盛り上げていただきました。特に、当日、台北に到着されたばかりの応援部出身の遠州稲門会の青島様が、周到的な準備のもと、素晴らしいパフォーマンスを見せてくださいました。同会におかれては、「海外で都の西北を歌おう会」という活動をされており、今回、台湾での正に襲名披露公演となった次第です。2012年度の台湾校友会は台中での開催が予定されていますが、そちらの機会にも是非ご参加いただきたいと思っております。

翌27日(日)は、ゴルフと観光に分かれての行事となりましたが、2階建てバスに乗り込んだ観光コースの方は、交通渋滞の恐れから國賓大飯店を朝7時に出発しました。2006年6月に開通した雪山隧道(全長12.9キロ)を抜け、北宜高速公路を快適に走って8時半頃には、台湾東部沿岸の宜蘭に到着しました。

この日の観光コースは、この地の国立伝統センターでの散策、遊覧船への乗船、昼食といった行事を楽しむこととなりました。遊覧船も、電気モーターによるエコ・ボートで近郊の親水公園を巡るといった面白いものでしたが、圧巻は、昼食時の布袋指人形劇の体験です。人形師は、北京語・英語・日本語を駆使するというサービス精神で、参加者全員に台湾指人形の操り方を体験させてくれ、日本では思いも寄らない楽しい時間を過ごすことができました。心配した帰路の渋滞もなく、午後3時には國賓大飯店に無事戻ることができました。



左より北村幹事、丸山幹事、鎌田総長、董台湾校友会会長、岩永会長、川村幹事(本稿執筆)

## ◇日台稲門会講演会・懇親会報告◇

### 日台稲門会 平成23年秋季講演会・懇親会実施報告

日時：平成23年10月8日(土)  
場所：16:00～ 講演会：22号館5階502教室、  
18:00～ 懇親会：大隈会館「楠亭」

秋季恒例の講演会を開催しました。10月8日午後4時から母校22号館8階会議室において、35名の参加を得ました。ご来賓として駐日台北経済文化代表処から羅次長にご臨席いただき、羅次長には懇親会の最後までお付き合いをいただき感謝申し上げます。

今回の講師は、映画監督の酒井充子先生にお願いしました。酒井監督の映画「台湾人生」は、台湾の日本語世代の人たちの人生の転変を深い共感をもって描いた作品で、多くの人々の感動を呼びました。

早稲田大学において酒井監督はすでに2回も上映会と講演をされておりますが、日台稲門会では台湾を良く理解する会員が更に突っ込んだ議論をしたい、との考えから酒井先生に講演をお願いしたものです。酒井先生は、日台稲門会の会友でもあります。

当日は「台湾とわたし」と題して、『台湾人生』製作のための丹念な取材過程の中で、心を通わせた人

ちのお話の数々を感銘深く聞かせていただきました。

聴衆である私たちがそれぞれ台湾にいたときに、日本語世代の人たちとの交流で身近に経験したことでありますから、皆肯きながら拝聴しました。

質疑応答は、途中で打ち切らなければならないほど続きました。講演会には岩永ゼミの学生を中心に、台湾からの留学生を含め6名の学生の参加もありました。

講演会終了後、楠亭において懇親会を開催、講師を囲んで話題が尽きませんでした。途中、酒も料理も足りなくなり急遽追加注文しましたが、全員が最後までお残りいただき歓談できましたことは、大きな収穫だったと思います。実り多い秋の夜でした。

講師の酒井先生、代表処の羅次長を始め、ご参加いただきました皆様に感謝申し上げます。以上  
(担当幹事：渡邊義典 記)

### 日台稲門会 平成24年新春講演会実施報告

日時：平成24年2月4日(土) 16:00～  
場所：22号館2階201教室、

今回は、台湾通の片倉佳史氏を講師にお招きし、「台湾の現況と日台の絆」をテーマにご講演を頂きました(早稲田大学台湾研究所・協賛)。会場には台湾人聴衆も含め150人以上が詰めかけ、台湾への熱い関心が感じられました。片倉氏は平成8年から約15年間台湾に在住、台湾に関することならジャンルを問わず観察を続けられ、著作も多数発表されています。

前半は先月行われた台湾総統選、立法員選挙を、後半は200億円に上る義捐金の訳について、それぞれ現地からの視点で、真摯な中にもユーモアも交え雄弁かつ丁寧に語られ、予定時間を大幅に超過しました。

以下、ポイントのみ抄録。

投票日直前まで見当の付かない状況で進行し、開票結果発表まで勝敗が分からなかった。また、台北市では熱い選挙から静かな選挙へ、という選挙慣れの印象で、懺もあまり見られなかった。

今回投票率は74.38%と、前2回に比べ低かった。1月14日の投票日が23日の旧正月直前にあたり、二度も帰郷できないため棄権したため、ではないか。

南部では高雄のみ投票率が高かった。中国からの観光客が大幅に増加したことが背景にある(2011年の渡航者172万人中130万人が観光目的と思われる、日本人は120万人)。2008年、高雄市長が独断でダライ・ラマを招聘したが、中国は報復として高雄への観光客を止め、高雄のホテルはキャンセルが相次ぎ大損害を蒙った。このような人口を武器とした攪乱策が効を奏したか高雄のみ投票率が高く、国民党が勝利した。中国により利益をあげる人が多いためこのような結果になったと思われる。

民進党は女性が候補になったことで、イメージカラーを緑からピンクへと変え、独立色を薄めた。

「加油台湾」は元々民進党のキャッチフレーズであったが、今回は国民党にお株を奪われた格好。

国民党は日台関係の再構築に熱心である。台中問題は中国にとり建前上国内問題であるが、台湾が日本と組めば国際問題となる。例えば、台湾企業が中国に単独で進出した場合は国内企業としての扱いになりコントロールされるが、日本企業と組めば外国企業としての扱いになる。この流れで、日台合作ビジネスを盛

んに推進している。

さて、東日本大地震・復興支援～200億円にのぼる義捐金の理由であるが、①台湾人、外省人を問わず日本への親近感・友情・親日感情が強い、②1999年台湾中部大地震時の日本の対応に対する「恩返し」

であるとする人が多い、③相互扶助の精神（台湾人と日本人との親切には差があるが）、④主体性に基づく行動（積極的である）、⑤両国間の文化・経済・社会の結びつき、が挙げられる。また、これが台湾人の特性・特質なのである。（文責・齋藤晃）

#### ◇第4回早慶ゴルフ対抗戦結果報告◇

##### —早稲田完敗（対戦成績 早稲田2勝2敗）—

第4回早慶ゴルフ対抗戦が秋晴れの下、去る10月17日に前回と同じく習志野カントリーで行われました。早稲田6名、慶応8名参加と少数精鋭ですが、インドネシアから年間80ラウンドと大いに腕をあげた、川田さんを助っ人に、これなら勝てるであろうと臨みました。しかし結果は以下のとおり「惨敗」となっていました。但し、個人賞（ニアピン、ドラゴン）で早稲田メンバーが絡んでいることから、次回

こそは再起をはかろうと決意を新たにしました。

懇親会は千葉ニュータウン駅前の居酒屋でしたが、やかましいほど盛り上がり早慶入り乱れて大いに飲み放題を楽しみました。

帰国後に、我こそはと思う早稲田メンバーの方、この結果を見てぜひとも日台稲門会にご参加ください。（中島 記）

記

日時：2011年10月17日（月）  
会場：習志野カントリークラブ（千葉県）

団体の成績：

	早稲田（稲門会）	グロス	慶応（三田会）	グロス
1位	輿石（44年）	104	森安（60年）	90
2位	神田（45年）	104	関根（53年）	91
3位	高橋（48年）	105	飯沼（39年）	101
4位	岩永（44年）	105	和田（49年）	102
5位	中島（H3年）	106	井下田（41年）	102
	合計ストローク	524	合計ストローク	486
	平均ストローク	104.8	平均ストローク	97.2

参考

ドラゴン 7番 高橋、15番 森安

ニアピン 3番 関根、6番 高橋、13番 圓本、16番 中島





## ◇ 新会員・会友自己紹介 ◇

北川原 宣夫 (きたがわら のぶお 昭和48年第一法学部卒)

私が台湾と接点が一番あったのは、台湾新幹線の架線用資材を、現地で製造・納品(OEM)していた2002年から2005年にかけての時期です。特に03年と04年には、毎月1週間ほど台湾に出張していました。これに88年以降昨年までに他の用事で出張していたものを加えると、出張回数で約70回、延滞日数で約400日になります。この間同級生であった萩原さんが台北に駐在しておりましたので、出張の度に一緒に食事して旧交を温めておりました。そしてこのたび彼の勧めと紹介により、日台稲門会に入会と同時に幹事候補という異例のスピード出世(?)となった次第です。しかしながら、私の場合台湾での駐在経験がないので、文化とか生活習慣についての知識は余りなく、又現地代理店の台湾人が日本語堪能だったため、言語の知識も殆どありません。又、日台稲門会の方々との接点も今までありませんでしたので、いくら岡々しい私でも幹事になって本当に良いものか自問しております。でも、踏み出せば自然と道はできると言いますから、せめて皆さんの足手纏いにならないように精進したいと思っておりますので、どうか宜しくお願いします。

尚、添付の写真は、開通前の新幹線の架線状況で、柱以外のビーム等の鉄製品を現地で製作・管理しておりました。全線345kmすべて私どもの納入した製品で、ローテックではありますが、それ故半永久に残ります。



三村 達 (みむら とおる 昭和50年第一法学部卒)

皆様、はじめまして。法学部50年卒の三村と申します。卒業後、丸紅に入社し国内鉄鋼で10年、その後市場業務部で勤務し、台湾には2003年から2006年までの4年間台湾丸紅の副社長兼総括部長兼物資食料部長として勤務いたしました。現在は、社会福祉法人 丸紅基金に10代目事務局長として出向しております。社会福祉法人 丸紅基金は、総合商社の社会貢献事業として37年間1年も休むことなく、毎年1億円ずつ、社会福祉法人、NPO法人などの社会福祉団体に対し助成を行っております。台湾での勤務地は台北でしたが、台中、台南、高雄には、出張、観光で何度も行きました。台湾での4年間はとても充実しており、



仕事面でも、プライベートにおいても、実に思い出深いものがあります。台湾の歴史についてかねてより興味がありましたが、4年間の駐在の中で、台湾の人々や、数多くの書籍で台湾の歴史、日本との関係、中国との関係をより深く知ることができ、現在は、駐在前以上に親台派になりました。帰国後、台湾には、毎年1回は遊びに行っています。日台稲門会に入会するきっかけは、台湾駐在時代に日本人会、日僑工商会等でご一緒させていただき、お世話になった住友商事の岩永会長のお誘いによるものです。日台稲門会には今後とも積極的に参加していくつもりですので何卒よろしく願いいたします。

山田 周平 (やまだ しゅうへい 平成3年政治経済学部政治学科卒業)

日台稲門会のメンバーの皆様、初めまして。1991年、政経・政治卒の山田周平と申します。現在は日本経済新聞社編集局アジア部で次長(デスク)を務めております。

入会は、岩永康久会長からお声をおかけいただいたのが動機です。私は2004年2月から4年強、弊社台北支局長として台湾に駐在しておりました。その当

時、現地の日本人社会で中核的な存在として活躍されていた岩永様にお世話になり、帰国後に入会をお勧めいただいたのです。

在学中は政治哲学のゼミ(藤原保信先生)に所属し、水泳同好会の責任者(幹事長)を務めました。当時は台湾との縁は無かったのですが、社より中国留学(97~98年、北京)を命ぜられ、同じ中華圏というこ

とで台北駐在を経験するに至りました。皆様ご存知の通り、台湾は政治的に非常に特殊な環境にあり、報道ではバランス感覚が欠かせません。藤原ゼミでは落ちこぼれでしたが、抽象的な事象を考える訓練を受けたことが、台湾報道の助けになったような気がします。社では産業ミクロを報道する部署と、海外報道の部署をほぼ半分ずつ歩んできました。現在は本社で、主にアジア発のニュースを朝夕刊や電子版向けに編集

する職務に就いています。先日の総統選挙でも、担当デスクとして記事編集に当たりました。

ただ、帰国から4年が経過し、現地の事情に疎くなってきたのが悩みです。皆様との情報交換で、感覚を取り戻せば幸いです。よろしくお願いいたします。

2月4日の講演会にも参加いたします。重ねまして、よろしくお願いいたします。

## ◇台北事務所便り◇

台湾で世界の早稲田を標榜し、早稲田大学を代表して活躍されている岡本さんから近況が届いております。

### 「台北事務所 留学生の動向と最近の活動」

早稲田大学台北国際交流センター 岡本宏一

早いもので、2008年7月に台北事務所を開設して以来3年半が経過しました。東日本大震災の影響で、日本への留学にも大きな打撃が出たと言われているので、今回は、台湾から早稲田大学への留学生の動向についてお知らせしたいと思います。

#### ◇留学生数に関して

早稲田大学では毎年5月現在で留学生に関する調査を行っており、2011年5月の台湾籍留学生数は、259人。内訳は、学部生93人、大学院生144人、別科日本語専修生22人でした。

大震災直後、大陸や韓国の多くの学生が帰国し、台湾からも転学者がでましたが、259人という数は、

当事務所開設前の2008年5月時点で208人だったことを考えれば、3年間で50人以上増えており、低い数字ではないと考えています。さらに、英語課程に進学する米国籍、カナダ籍の台湾人留学生も目立ってきており、安定して進学者が増加していると言えると思います。

#### ◇留学生のバックグラウンドに関して

2004年に国際教養学部を開校し、台湾の高校卒業後すぐに早稲田大学へ進学するケースが出始めました。さらに文部科学省国際化推進整備事業(G30)に採択されたことにより、2010年9月からは政治経済学部と理工学部に、2011年9月からは社会科学部に英語プログラムが開設され、進学希望者の勢いは増し、競争が激しくなっています。今、安定して早稲田大学に進学者を出している台湾の高校は、中山女子高、台北第一女子高、台湾師範大付属高、政治大付属高、衛理女子高、台中第一高、台南女子高、台北アメリカンスクールなどですが、今年は建国高校からも推薦で政治経済学部に進学者がありました。これらの高校は台湾でも有数の進学校で、中には台湾大学や政治大学に合格しているにも関わらず、早稲田大学に進学するケースもあり、嬉しい限りです。これには、当事務所の地道なサポートも効果を発揮していると

自負しており、単に情報を提供するだけでは良い学生は集まらないと思っています。

一方、大学院へも、頂新国際集団(康師傅)からの奨学金もあり、台湾大学、政治大学、清華大学、中山大学等から進学者が出ています。

優秀な学生を求めることが第一ですが、最近では日本と仕事の関係がある会社経営者の子弟等からの相談も多く、ネットワークが広がってきたことは嬉しく思っています。私からは、可能な限りのアドバイスをし受診していただいています。全て合格すれば気が晴れますが、そうは簡単には行きません。なかには、一度不合格になって日本の他の大学に進学していたところを再度チャレンジしてもらい、見事合格というケースもあり、その時はご両親とともに喜びました。その学生は、今では学内の評判も良く、将来組織を背負って活躍してくれることが楽しみです。

#### ◇台湾での学生募集に関して

基本は、高校訪問をしたり、留学説明会を開催してPRすることが第一です。ただ、年に一度高校を訪問しただけでは、なかなか進路指導の教員の理解を得るまでには至りません。せっかく推薦指定校だからと専用の書類を手渡しても、推薦希望の生徒がたずねると「そんな書類は届いていないと先生に言われた」と生

徒から当事務所に相談の連絡があることも多々あります。こうなると父母やPTAを巻き込んで、先生方の意識を高める工夫をするしかありませんが、海外の大学に進学させても高校の実績にはカウントされない現実を鑑みれば地道に取り組んで先生方を啓蒙するしかないと思っています。

#### ◇ゼミ交流に関して

2011年11月4日に政治経済学部の若林正丈教授とゼミ生11人が、台湾大学政治学系の王業立主任と学生10人と交流討論会を行いました。当事務所

のある新光ビルの貴賓室を借りることができ、事前に準備したテーマに基づき、二時間にわたって緊密な交流がなされたので、ご紹介いたします。

(2011.12.20記)





台湾師範大学付属高校での早稲田大学留学説明会



政経若林ゼミと台湾大学との交流討論会

◇ 台湾関連ニュース ◇

NHKのど自慢 IN 台湾

山下 晋一（昭和54年・商学部卒業）

「NHKのど自慢IN台湾」は10月2日に国父紀念館で収録が行われ、29日19時から75分のスペシャル番組として放映されました。

収録当日はあいにくの雨模様でしたが、ご高齢の台湾人の方をはじめ大変たくさんの観客の皆さんが早くから国父紀念館に集まり、列を作り、開場を待たれておりました。観覧希望者が多く大変厳しい確率の中で当選した方々が宝くじにあたったように喜ばれ参加されていたそうです。開演後に会場内では涙を流しながら観覧しているお年よりもいらっしやり、皆さん本当に長年の夢がかなったという思いで心から喜ばれていました。

「NHKのど自慢」の海外公演は05年のメキシコ公演以来6年ぶりということで、親日・愛日の方が多い台湾では、予想どおり、応募総数が海外公演としてこれまで過去最高だったブラジルでの674組を大きく上回る1,480組で、前日行われた予選でも厳しい250組の審査の結果、最終的に25組の皆さんが選ばれたそうです。

参加者25組の内台湾の方が19組、台湾在住の日本人が5組、日本人と台湾人のデュエットが1組登場し、戦前の日本統治時代に育った84歳の女性や日本で歌手デビューを目指す若者らが、演歌、ポップス、韓流music（少女時代）まで様々な歌を熱唱していました。一人一人が日本語で一生涯懸命覚えた自慢の歌を大変上手に披露し、会場を沸かせていました。出演した小林幸子さんが番組収録後に会場で、観客の皆さんに泣きながら200億円を超える義捐金へのお礼を言われ、観客の皆さんから大変大きな拍手をいただいております。

「NHKのど自慢」につきましては、日本統治時代を経験したお年寄りなどの台湾人や日本人会の皆さん

んが中心になって、2006年当時、台湾での「NHKのど自慢」開催実現に向け2万5千人に上る署名活動を行い、NHKに要望した経緯がありました。しかしながら、そのときは残念ながら実現できませんでした。当時、台湾の皆さんの夢は台湾での「NHKのど自慢」の開催と大相撲の開催でした。大相撲は6年ほど前に実現し、残るは「NHKのど自慢」だけという状況でした。

2010年に入って、日本人会、工商会の理事会では2011年が日本人会50周年、工商会40周年という節目の年であり、日本人会・工商会の記念行事としてどういったイベントを行うかについて話し合いが行われておりました。その中で、以前実現できなかった台湾の皆さんの念願である「NHKのど自慢」の台湾開催を記念行事として実現しようという案が出されましたが、前回署名活動までやっても実現できなかった「NHKのど自慢」を実現するのは非常に難しいのではという意見も出されておりました。

そうした状況にあった2010年2月に、私が日本航空広報部在籍当時から長年お付き合いいただいていた京葉PRの田村泰一社長が船橋ロータリークラブと桃園ロータリークラブとの関係で来台され、お会いすることができました。その際に長年の台湾人の夢である「NHKのど自慢」の台湾での開催等につきご相談させていただきましたところ、田村さまからは東京に来たときに懇意にされているNHKの方を紹介するから一緒に相談しようとお応えいただきました。

4月に私が東京へ出張した際に、田村さまと共にNHKの井上編成センター長にお会いし、台湾でのこれまでの「NHKのど自慢」開催についての想い、経緯等をお話しし、2011年の日本人会50周年、工商

会40周年記念行事として台湾の皆さんの念願である「NHKのど自慢」を是非台湾で開催していただけないかというお願いをいたしました。

井上さまは大変興味深い話であり、NHKとして積極的に検討をしたいという回答をその場でいただき、台湾側受け入れ事務局として工商会の山本総幹事をご紹介させていただきました。

5月末に私は日本に帰国しましたが、NHK制作局が調査チームを台湾に派遣し、日本人会、工商会と調整しつつ事前調査を行った結果、開催が正式に決定され、その後、工商会、日本人会の皆さんの全面的な支援の下に準備が進み、収録当日を迎えております。正式発表は昨年5月に行われ、その際に片倉佳史さんからもお礼のメールをいただき、大変嬉しく思いました。

「NHKのど自慢」の収録当日、日本人会の草野理事長が会場での開演前のご挨拶で「このNHKのど自慢を台湾で開催するために尽力され日本に帰国された方が今日ここにいられています。」という話をされ、終了後、ちゃんとあなたの話をしたよと言われ感激いたしました。また会場で今井交流協会代表、彭垂東関係協会会長からも「おめでとう。ありがとう。」というお言葉をいただきました。

「NHKのど自慢」の翌日、工商会の例会が国賓大飯店で開催され、NHKの徳田アナウンサーの講演「NHKのど自慢の歴史とエピソード」が行われ、満

席の状態で大盛況、大好評でした。

その後、NHKの井上さまから台湾に行った番組スタッフから熱烈な台湾の地元「のど自慢」ファン、親日的な台湾人の皆さんのお陰で大変な盛り上がりで、日本人会、工商会を中心に200人を超えるスタッフの協力により、これまでの海外で開催した「のど自慢」の中で最も素晴らしいものになったとお礼のお電話をいただきました。「あとは私たちの仕事です。必ず素晴らしい番組にします」という熱いお言葉をいただくとともに、番組放映後にも、視聴率は10%にわずかにいたらなかったものの、大好評でしたというお話をお聞きしました。(ちなみに台湾での視聴者は含まれておりません。)

後日談ですが、井上さま並びに田村さまには草野日本人会理事長より「井戸を掘っていただいた方々へのお礼」として感謝のお手紙が送られております。

220億円を超える東北大震災に対する台湾からの義捐金により日本と台湾の絆の強さが改めて再確認されました。そうした状況の中で台湾の皆さんの念願であった「NHKのど自慢 IN 台湾」が実現でき、結果として、ささやかですが日本からのお礼ができたのではと思っております。「NHKのど自慢 IN 台湾」実現のためにご尽力いただいた井上さま、田村さまをはじめNHK、日本人会、工商会等、数多くの関係者の皆様に、心より感謝しております。

## § 台湾総統選、立法院選挙 §

### 中国国民党 馬英九氏が再選、立法委員は17議席減

1月14日に行われた台湾・総統選挙と立法委員選挙の投票結果は次の通り。

総統選の結果：

馬英九	689万1139票 (51.6%)
蔡英文	609万3578票 (45.6%)
宋楚瑜	36万9588票 (2.8%)

立法委員選挙の結果 (113議席)：

中国国民党	64議席 (-17)
-------	------------

民主進歩党	40議席 (+13)
台湾團結聯盟	3議席 (+3)
親民党	3議席 (+2)
無党團結連盟	2議席 (-1)
無所属	1議席 (0)

立法委員選では中国国民党が17議席を失い、民進党は13議席を増やした。

なお有権者数は約1809万人で投票率は74.38%、総投票数は13,455,342票であった。

## § 台湾関連書籍紹介 §

### 片倉佳史著作の紹介

片倉佳史氏の講演会で、次の著作が紹介されました。

「観光コースでない台湾一歩いて見る歴史と風土」(高文研)、「台湾風景印～台湾・駅スタンプと風景印の旅」(玉山社)、「台湾に残る日本の鉄道遺産」(交通新聞社)、「台湾 鉄道の旅」(JTBキャンブックス)、

「台湾に生きている『日本』」(祥伝社)、「台湾鉄道と日本人」(交通新聞社)、「在台湾、遇見一百分的感動～片倉真理の手記」(夏目出版社)

是非、書店等でお求めください。

◇ 会 合 予 告 ◇

『第16回日台稲門会定期総会・第13回日台交流の集い』のご案内

本年度総会日程が確定しました。今回は例年とは場所を変え、大隈タワーで行います。総会・講演会は減多に入れない地下教室、交流の集いは夜景に浮かぶ校舎を階下に眺め、母校の変貌を実感しましょう。

日 時：平成24年6月9日（土）

場 所：総会 15：00～、講演会 16：00～ 早稲田キャンパス大隈タワー（26号館）地下会議室  
日台交流の集い 18：00～ 同15階「西北の風」

◇ 平成狂歌「冬の巻」 ◇

もうすっかりお馴染、関口会員の狂歌、第4弾です。

たつ年の願いはひとつ この国の  
何処も彼処もしゃんとたつ年  
もろともに哀れと思え70代  
腹よりほかにたつものはなし  
予報士のあの姉さんについみとれ  
明日のお天気またうわの空  
大阪の 吹けば飛ぶよな【歩】知事から  
【と】知事に変わる成金の夢  
対岸を総統気にする舵取りは  
近すぎぬよう遠すぎぬよう  
アレ取ってアレというからアレ取れば  
コレじゃないでしょアレよアレアレ

■ 編集後記 ■ 古来日本人には判官（ほうがん）鼯鼠という特有の心情があり、不遇な身の上や弱い人に同情し、兎角肩を持ったりして応援したがる。殊にスポーツ観戦時によく発揮され、甲子園初出場の無名高校から、果ては選手が旗手のみというオリンピック出場の小国までがその対象となる。譬えは適切でなかったかもしれないが、東日本大震災の被災に対する台湾人の想像を絶する額の義捐金には、そういった紐帯があると思う。また台湾は慈善活動の盛んな国であり、編集子も駐在時折々目撃したところである。

台湾総統選・立法院選の結果、与党・国民党が引き続き政権を担うこととなった。民進党に判官鼯鼠のシンパシーを感じる向きにはいささかご不満もあるようだが、世界が注目する中で行われた民主的な選挙であったと思うし、結果は台湾有権者の選択。それよりも、狭義の中華圏で唯一実施されているこの民主選挙のプロセスが、既に事実上確定した次期指導者が、就任前の挨拶外交中の大国におよぼす影響に注目したい。

さて、「のど自慢IN台湾」はNHKの快挙であった。TVの画面全体から政治色抜きの温かい雰囲気伝わってきて、録画を何回も観てしまった。実現に向けての署名運動に尽力された方々の顔も浮んだ。一方文化交流ではなく日本文化の押しつけ、という向きもあるが、それは今後の双方交流で解決したいと思う。

3月3日から映画「父の初七日」（監督：王育麟、劉梓潔）が日本でも上映される。詳細は省くが、台湾人の“死”に対する考え、捉え方、対処の方法について今までの疑問（特に駐在だった方々）が氷解すると思う。あの華々しくも哀愁の漂う台湾葬儀、そして遺族の心情、哀情、是非ご覧ください。（編集子：齋藤）